


平成29年度 特別支援教育総合推進事業

十勝管内における特別支援教育の充実のためのパンフレット

一人一人に 最適な支援を



〔第3号〕

～巡回相談の活用を通して～

平成30年3月31日

十勝教育局管内専門家チーム

1

巡回相談とは

巡回相談の目的

- 幼稚園、小・中学校及び高等学校からの申し出に応じて、巡回相談を実施し、発達障がい等の状況の把握や、望ましい教育的対応に関する指導助言を行うことを通して、管内の特別支援教育の充実を図ります。

※ 相談は無料で、個人情報等の秘密は厳守します。

巡回相談の対象

- 通常の学級に在籍する、発達障がいやその疑いがあると思われる幼児児童生徒
- 特別支援学級に在籍する児童生徒
- その他、特別な教育的支援が必要と思われる幼児児童生徒



巡回相談のQ & A

Q 1 巡回相談員にはどのような方がいますか？

A 1 小・中学校、高等学校及び特別支援学校の特別支援教育コーディネーターに加え、教育局義務教育指導班の特別支援教育スーパーバイザー、高等学校教育指導班指導主事がいます。

Q 2 巡回相談には、誰が来てくれるのですか？

A 2 特別支援教育スーパーバイザーが、派遣要請の内容に応じて、巡回相談員の中から選出します。基本的に特別支援教育スーパーバイザーが同行し、2名で訪問します。特に指名がある場合は、その旨を派遣要請票に記入してください。

Q 3 巡回相談を要請する際に、保護者の承諾は必要ですか？

A 3 必要です。専門家チームは、発達障がいを含む障がいの有無に係る判断をしたり、望ましい教育的対応等に関する指導助言を行ったりしますので、必ず承諾を得てください。

Q 4 検査はしてもらえますか？

A 4 必要に応じて実施できます。ただし、IQなどの数値を出すことや、障がい名を判定することが目的ではなく、子どもの得意なことや苦手なことを把握し、今後の支援の方向性を検討する上での客観的な指標を得ることが目的となります。

Q 5 同じ子どもについて、何回も相談してよいですか？

A 5 複数回の相談は可能です。1回目の相談後からの変容を把握したり、支援の変更点を確認したりすることができます。ただし、子どものよりよい支援に向けた回数となるよう計画性をもって派遣要請してください。

Q 6 相談した後の報告は必要ですか？

A 6 専門家チームでは、巡回相談の際の助言内容を充実させるため、巡回相談後の子どもの変容や教師の支援について把握できるように、派遣した学校に「相談後の様子」の記入をお願いしています。

2

最適な支援のために

専門家チームにおける巡回相談の内容の一部を記載しました。各学校で支援を考える際の参考としてください。

対人関係に課題のある幼児

友だちとの適切な関わりを促す支援の在り方の例

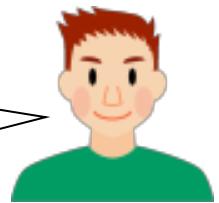


幼稚園教諭

友だちに乱暴な言葉を言ってしまったり、相手への力加減が難しくなったりするんですよね。

日常的に情緒を安定させるよう意識し、落ち着いた状態で多くの成功体験を重ねていってはどうですか。

意図的に友だちと関わる場面をつくって、上手な関わりができた時にたくさん褒め、相手の気持ちを意識させよう。



巡回相談員A

【支援のポイント】

友だちとの関係を上手に築くことが難しい子どもには、相手との関わりがもてる遊びの中で、自分の気持ちを話したり、相手の気持ちを考えたりして、適切な関わり方を支援する機会を設けることが大切です。

発達障がいのある児童

交流及び共同学習へ参加する際の支援の例

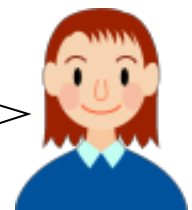


小学校教諭

集中して学習に取り組む時間を長くするには、どのように指導したらよいのだろう。

取り組みやすい目標設定をし、達成感が自分で味わえる工夫をしてみたらどうですか。

シール等で、頑張りが目で見分けるようにしてみよう。



巡回相談員B

【支援のポイント】

周りの音や掲示物等が刺激となり、気が散ることが多い子どもには、短時間で達成できるような課題や量の工夫をしたり、学習の終わりを明示したりし、学習意欲を高めることが重要です。

通常の学級に在籍している児童

学習意欲を高めるための児童への支援の例

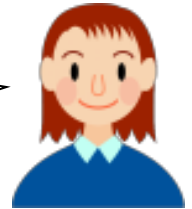


小学校教諭

学習の積み重ねがなく、理解していないようだけど、本人は困っているように感じられないんですよね。

分かる経験を積み重ねるために、短時間で達成できるように課題の内容や量を工夫してはどうでしょうか。

基礎的な問題から始めたり、できそうと思える課題の量に調整したりし、自信をもたせてみよう。



巡回相談員C

【支援のポイント】

学習意欲が低い子どもには、生活体験や体験的な活動と関連させたり、できる課題から段階的に学習させたりすることで、子どもに分かる実感をもたせ、学習意欲を高めることが大切です。

通常の学級に在籍している中学校の生徒

相手に自分の思いを伝えることが苦手な生徒への支援の例

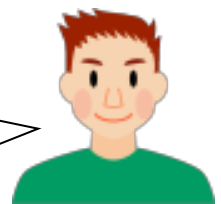


中学校教諭

話し合い活動や授業中の会話の中で、自分の意思を伝えるのが難しいんですよね。

本人を特定して、サポートすることがかえって重荷に感じることもあるかもしれません。学級全体の配慮の中で、助けを求められる方法をとってはどうか。

学級全体のルールとして質問や分からない時は、「ヘルプカード」の活用を提案してみよう。



巡回相談員D

【支援のポイント】

自分の思いを伝えることが苦手な子どもには、話し方が分からないのか、理解してもらえない自信がないのかなど、教員が子どもの心情的な要因をとらえることが大切です。また、対象の子どもだけではなく、学級全体で取り組める話し合い活動のルールを工夫することも大切です。

北海道教育庁十勝教育局

〒080-8588 帯広市東3条南3丁目 (0155) 26-9241

教育支援課義務教育指導班
